

令和元年度 学校評価について (令和元年12月実施)

南足柄市立向田小学校

春暖の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に対し、ご理解とご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、12月5日付け文書にてお願いいたしましたアンケート調査ですが、多くの皆様にご回答をいただき誠に有り難うございました。15の項目すべてについて、児童、保護者、職員がそれぞれの立場から評価した結果を次のようにまとめました。

なお、この結果につきましては、学校運営連携協議会で検討された結果をふまえて、来年度の教育活動に生かし、一層の充実に向けて職員一丸となって取り組みますので、引き続きご協力をお願いいたします。

★表の見方

1～3年	117	63%	37	20%	19	10%	13	7%
	83%		-6%		17%		+6%	

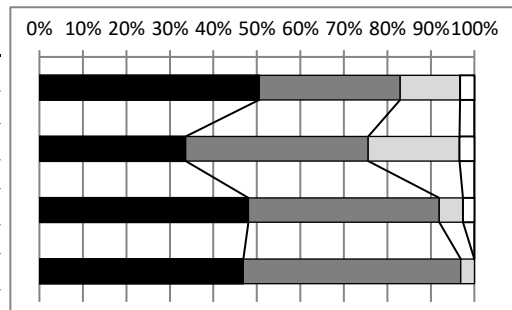
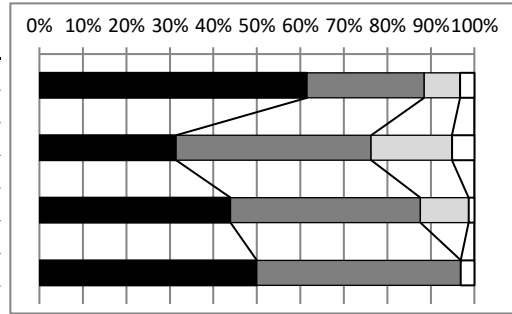
肯定率(A+B%)

平成30年度との比較

★小数点以下を表示してないので、合計が100になってない場合があります。

1 全般

設問①	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
「学校を楽しみにしている。」	1～3年	112	62%	49	27%	15	8%	6	3%
		88%		+6%		12%		-6%	
	4～6年	61	31%	87	45%	36	19%	10	5%
		76%		+3%		24%		-3%	
	保護者	166	44%	165	44%	42	11%	5	1%
		88%		+1%		12%		-1%	
	教師	16	50%	15	47%	0	0%	1	3%
		97%		-3%		3%		+3%	
設問②	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
「よいところや努力が認められている。」	1～3年	92	51%	59	32%	25	14%	6	3%
		83%		+3%		17%		-3%	
	4～6年	69	34%	86	42%	43	21%	7	3%
		76%		+2%		24%		-2%	
	保護者	184	48%	168	44%	21	5%	10	3%
		92%		+0%		8%		-0%	
	教師	15	47%	16	50%	1	3%	0	0%
		97%		-3%		3%		+3%	



全般についての考察

①「学校を楽しみにしている。」について

下学年に比べ、上学年の「あてはまる」の割合が少ないところが気になります。上学年の「あてはまる」が減っているのは、学習面のつまずきが考えられます。また、「あまりあてはまらない」の割合の多さも気になります。「あてはまらない」と答えている子には、はっきりとした理由があるはずなので、その背景を探り、ケアをしていくことが必要です。また、学習面だけでなく、友達や先生との人間関係も大きく影響していると考えられるので、心のケアにも努めます。

改善策としては、学習面のサポートをより手厚くしていくことです。学習内容がわかる、できるということが喜びとなり、学校が楽しくなるということにつながっていくと考えます。また、自己肯定感を高めていくことも同様であると考え、そのための指導の工夫が必要です。否定的な回答をした児童の気持ちにも寄り添い、その背景を探り、きめ細かな指導・支援等を継続的に行っていくます。

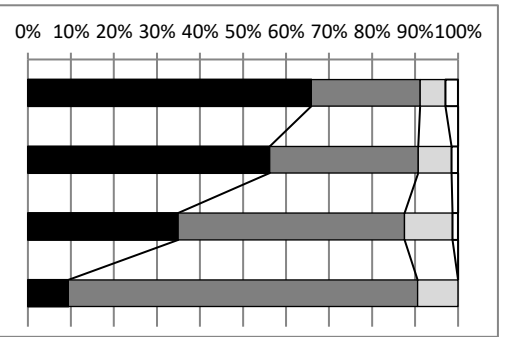
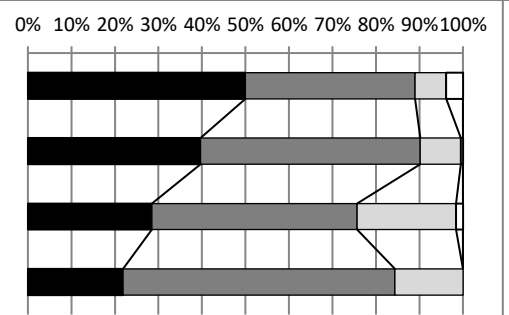
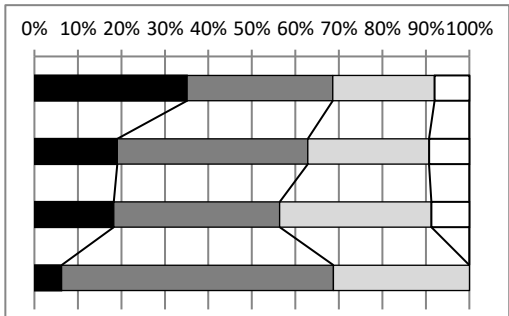
②「よいところや努力が認められている。」について

ほめられた子は「あてはまる」を選んでいるようです。しかし、高学年は、4人に1人が否定的にとらえています。自分一人がほめられているか、全体をほめられているかのとらえ方の違いも考えられます。上学年に対しては、「認められた」という達成感や自己有用感を感じさせる指導のあり方を考える必要があります。授業を行う際には、教科の本質にふれる楽しさを味わわせることを大切にしています。児童が楽しく勉強し、学習内容がよくわかれば、その喜びを味わうことができます。そして、努力したことが結果として結びつければ、自己肯定感につながっていきます。

改善策としては、児童の自己肯定感を高めるための1つの手段として、ほめ方やほめるタイミング等をよく考えて指導にあたることです。また、しっかりとやっている児童の認め方が大事です。安易にほめ言葉を使うのではなく、児童の様子やタイミングを見ながら適切に努力の様子を評価し、次の活動への意欲づけを行う指導・支援を行っていきます。

2 確かな学力の向上

設問③	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
「自分から勉強している。」	1～3年	66	35%	63	34%	44	23%	15	8%
			69%		+4%		31%		-4%
	4～6年	37	19%	85	44%	54	28%	18	9%
			63%		+5%		37%		-5%
	保護者	67	18%	140	38%	128	35%	32	9%
			56%		+3%		44%		-3%
	教師	2	6%	20	63%	10	31%	0	0%
			69%		-2%		31%		+2%
設問④	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
学校での勉強がわかる	1～3年	91	50%	71	39%	13	7%	7	4%
			89%		+6%		11%		-6%
	4～6年	77	40%	98	51%	18	9%	1	1%
			90%		+9%		10%		-9%
	保護者	109	29%	180	47%	87	23%	6	2%
			76%		+3%		24%		-3%
	教師	7	22%	20	63%	5	16%	0	0%
			84%		-5%		16%		+5%
設問⑤	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
教え方の工夫やわかりやすい指導～授業のユニバーサルデザイン化	1～3年	112	66%	43	25%	10	6%	5	3%
			91%		+3%		9%		-3%
	4～6年	109	56%	67	35%	15	8%	3	2%
			91%		+6%		9%		-6%
	保護者	132	35%	199	53%	42	11%	5	1%
			88%		+3%		12%		-3%
	教師	3	9%	26	81%	3	9%	0	0%
			91%		-6%		9%		+6%



確かな学力の向上についての考察

③ 「自分から勉強している。」について

児童の肯定率は約7割弱、保護者の肯定率は約5割強で、差が見られます。保護者の皆様は、家庭での宿題や自主学習への取り組みから判断するので、児童の回答と差が出たのではないかと考えられます。宿題は家庭で勉強する習慣をつけることが目的です。どんな勉強をすればよいかなということを、自分なりに考えることや、その勉強の仕方学ぶことが大切です。宿題がある場合とない場合のメリットとデメリットを次のように考えました。

- ・宿題なし...○ 個人の自由度が大きい。今必要な勉強を自分で選択できる。 ▲ 保護者の取り組みせ方に差が出る。
- ・宿題あり...○ 家庭ではありがたい。(おむねの保護者) ▲ 出されたものしかやらない。やらされている印象が強い。

今後向田小学校では、宿題も含め家庭学習のあり方を考えていくことが必要です。学校全体で宿題のとらえ方を考え直し、個々で学習すべきことを選択できるよう、学年が上がるにつれて学校側からの宿題を減らしていくという方法も考えていきます。その分、家庭学習の自由度が高まり、自分の得意科目をさらに伸ばす学習をしたり、自分のウィークポイントに重点を置いて復習したり、単元ごとにまとまっていて効果的に学習することができるeライブラリーを活用したりするなどの学習方法が考えられます。なお、eライブラリーを積極的に家庭学習に活用するよう呼びかけてきましたが、本校児童の利用者数が激増したと市より報告を受けています。

④ 「わかる、できる喜びが味わえる授業の実践」について

保護者の肯定的な割合が少ないです。児童が宿題の内容がわからないときに家の人に聞くと、「勉強が分かっていないのかもしれない」と不安になるのかもしれない。また、教師が「あてはまる」(自信をもって指導できている)と回答する人が増加するよう、指導力向上にも努めていきます。「わかる、できる喜びが味わえる授業」とは、知識・理解の習得という面もありますが、友達同士の学び合いでいろいろなことを習得していく楽しさや喜びを味わうことができる授業という側面もあります。それらが絡み合うと本当の意味での「わかる、できる喜びが味わえる授業」となり、と学力や思考力、考える力の向上につながっていくととらえて指導にあたっていきます。

⑤ 「授業のユニバーサルデザイン化(UD化)」について

どの対象者も概ね約90%の肯定率で、授業について、教え方の工夫がされていたり、分かりやすい指導が行われたりしているととらえているようです。授業のユニバーサルデザイン化について職員間で情報共有することで、児童の学力向上にもつながっていくと考えます。今年度、問題解決的な授業を進める上で、構造的な板書(授業内容の流れがよくわかる)を大切にしてきました。反省として、視覚支援に偏っている板書の印象があり、情報過多や、準備し過ぎている傾向があげられました。児童が問題解決に向けて考える学習では、教師がすぐに答えを求め過ぎず、考えることを根気強く待つということを大切にしています。授業中、静寂な場面も必要です。児童が深い学びに到達するためには、熟考させなくてはなりません。練り上げとも言います。児童が「知りたい!」という知的好奇心をくすぐるような練り上げは、すぐにはできません。ゲーム脳ではなく学ぶための土壌を熟成し、粘り強く取り組む環境づくりをめざしていく必要があると考えています。

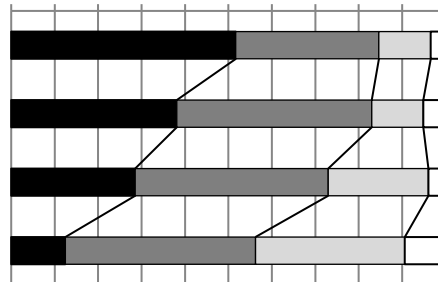
※ 授業のユニバーサルデザイン化とは?

「ユニバーサルデザイン」とは、年齢や性別、障害の有無等を問わず、「誰もが使いやすい環境づくり」という意味で、「ユニバーサルデザイン」という用語が多くの分野で使われています。教育の分野でも、「授業のユニバーサルデザイン化」という考え方が広まってきています。授業のユニバーサルデザイン化とは、施設・設備の面だけでなく、学習目標や学習方法、教材・教具、評価等、さまざまな面で特別支援教育の視点を取り入れ、**どの子どもも、より理解しやすい授業の工夫をめざしていく授業づくり**のことです。また、通常の学級には、発達障害のある児童・生徒を含め、授業に対して様々な困難さ(バリア)を感じている児童・生徒が在籍しています。授業を進める上で、発達障害のある児童・生徒には「必要」であり、どの児童・生徒にも「あると便利」な工夫を増やしていくことを大切にいく授業づくりでもあります。

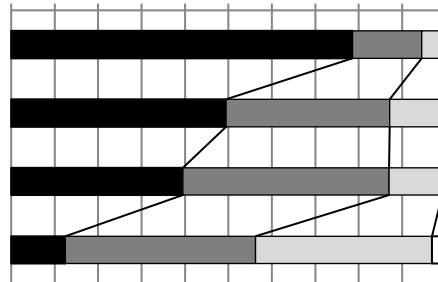
3 豊かな心の育成

設問⑥	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
自分からあいさつをしている	1～3年	91	52%	58	33%	21	12%	6	3%
		85%		+5%		15%		-5%	
	4～6年	74	38%	87	45%	23	12%	10	5%
		83%		+1%		17%		-1%	
	保護者	108	29%	168	44%	87	23%	15	4%
		73%		-0%		27%		+0%	
	教師	4	13%	14	44%	11	34%	3	9%
		56%		+19%		44%		-19%	
設問⑦	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
清掃活動の充実	1～3年	143	79%	29	16%	10	5%	0	0%
		95%		+4%		5%		-4%	
	4～6年	96	49%	73	38%	22	11%	3	2%
		87%		-1%		13%		+1%	
	保護者	149	40%	179	47%	46	12%	3	1%
		87%		-2%		13%		+2%	
	教師	4	13%	14	44%	13	41%	1	3%
		56%		-36%		44%		+36%	
設問⑧	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
規範意識の向上 ～やくそくを守って生活している	1～3年	98	54%	67	37%	14	8%	3	2%
		91%		+2%		9%		-2%	
	4～6年	53	27%	95	49%	37	19%	9	5%
		76%		-7%		24%		+7%	
	保護者	175	46%	157	42%	42	11%	4	1%
		88%		-6%		12%		+6%	
	教師	14	44%	13	41%	5	16%	0	0%
		84%		-12%		16%		+12%	

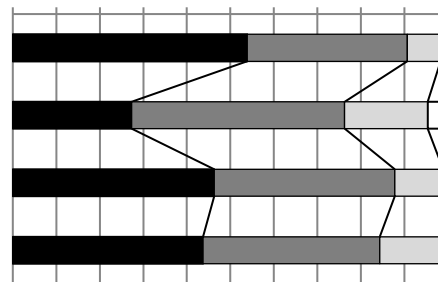
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



豊かな心の育成についての考察

⑥ 「自分からあいさつをしている」について

多くの児童が、あいさつができていて感じているようです。自分からあいさつをしているとらえている児童の中でも、気持ちの良いあいさつができていて感じる児童は、あまり多くはありません。形式的なあいさつに留まっている児童や、言われてからあいさつをしている児童も多いように感じます。児童一人ひとりが今の自分のあいさつの実態を知るとともに、改めてあいさつの意義を考えさせたり、あいさつすることの気持ちよさ・心地よさを実感させたりしていきたいです。そして、どの児童も一段上のあいさつができることをめざしていけるように指導を重ねていきたいです。学校・家庭・地域で連携し、継続して指導を行い、進んで気持ちの良いあいさつをしていこうとする児童を育てていきたいと考えています。

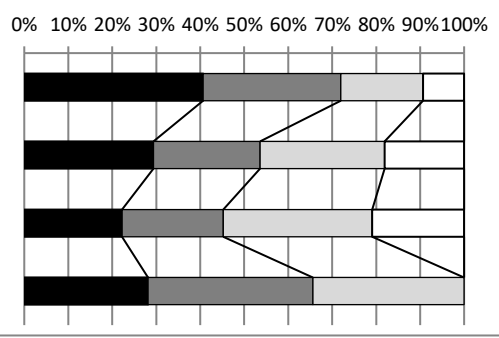
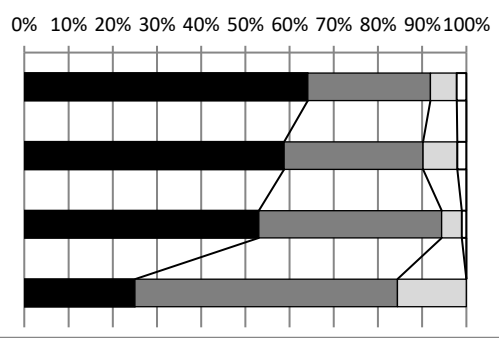
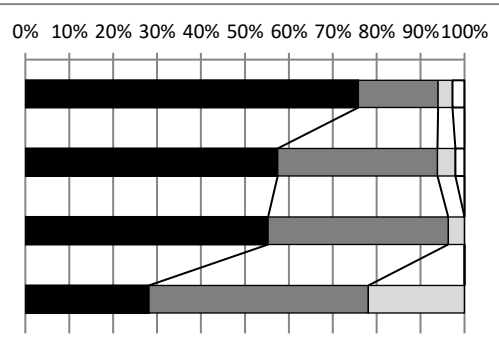
⑦ 「清掃活動の充実」について

清掃活動については、児童・保護者の肯定率は非常に高いのですが、普段の清掃活動の様子を見てみると、担当する掃除場所をきれいにするという意識で掃除をしている児童は少ないように感じます。学校を掃除をすることの意義をそれぞれの学年の実態に応じて指導をしていくことで、めあてをもって清掃活動に臨めるようにしていきたいと考えています。また、清掃の仕方マニュアルやタイムテーブルの表を教室に掲示することで、児童が自分の仕事内容を確認しながら意欲的に掃除を進められるようにし、清掃終了後の掃除場所の様子を見て、充実した思いを抱けるようにしていきたいと考えます。

⑧ 「規範意識の向上」について

ほとんどの児童が規範意識をもって生活していると感じているようですが、昨年度と同様に、廊下の歩き方・時間を守る・言葉遣い・持ち物等、「向田っ子のやくそく」を守れていない児童も見られます。自分の思いを優先したり、自分の都合で「向田っ子のやくそく」を破る児童やその行為を不快に思っている児童もいるということを伝えていくことも必要であると感じます。何のために約束があるのかを考えさせると同時に、定期的に「向田っ子のやくそく」の振り返りを行い、「向田っ子のやくそく」をみんなで守ることが、「誰もが安全で仲良く楽しい学校生活が送れる」ことにつながっていくことを実感させるようにしていきたいです。今後も「向田っ子のやくそく」を指導の基準にして、全児童に対して同じ指導をしていくことを全職員で確認し、指導にあたっていきます。

設問⑨	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
命を大切に する心、いじ めを許さない 心の育成	1～3年	138	76%	33	18%	6	3%	5	3%
			94%		+5%		6%		-5%
	4～6年	112	57%	71	36%	8	4%	4	2%
			94%		+4%		6%		-4%
	保護者	209	55%	155	41%	14	4%	0	0%
			96%		+1%		4%		-1%
	教師	9	28%	16	50%	7	22%	0	0%
			78%		+4%		22%		-4%
設問⑩	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
学年活動・異 学年活動・委 員会活動の 充実 ～なかよく生活	1～3年	118	64%	51	28%	11	6%	4	2%
			92%		+9%		8%		-9%
	4～6年	114	59%	61	31%	15	8%	4	2%
			90%		+1%		10%		-1%
	保護者	200	53%	156	41%	17	5%	4	1%
			94%		+1%		6%		-1%
	教師	8	25%	19	59%	5	16%	0	0%
			84%		-12%		16%		+12%
設問⑪	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない				
読書活動の 推進 ～読書の習慣 化	1～3年	74	41%	57	31%	34	19%	17	9%
			72%		+13%		28%		-13%
	4～6年	57	29%	47	24%	55	28%	35	18%
			54%		-6%		46%		+6%
	保護者	84	22%	87	23%	128	34%	79	21%
			45%		-3%		55%		+3%
	教師	9	28%	12	38%	11	34%	0	0%
			66%		-16%		34%		+16%



⑨「命を大切にできる心、いじめを許さない心の育成」について

児童の肯定率は非常に高いですが、それは、動植物を大切にしているというらえで回答しているのではないかと考えられます。命を大切にすることは、友達を大切にすることにもつながります。自分の思いを最優先にしてしまい、友達を傷つける言動をしてしまう児童も見受けられます。その都度自分の行動を振り返らせ、なぜそのような行為をしたのか、相手はどんな気持ちだったか、逆の立場だったらどう感じるかを考えさせ、粘り強く指導していくことが大切であると考えます。

また、学級活動や道徳の授業を行うことで、個々の人権意識を高め、誰もが「いじめは絶対に許さない」という思いを抱けるように指導を重ねていきたいと考えます。そして、どんな時でも相手の気持ちを考えた言動ができる児童を育てていきたいです。

⑩「学年活動・異学年活動・委員会活動の充実」について

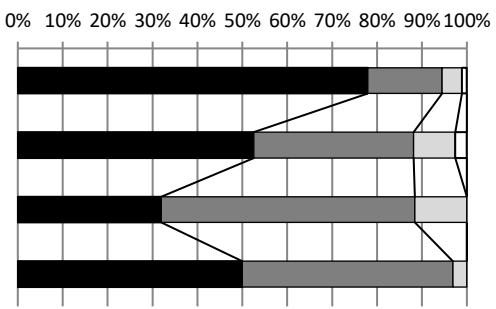
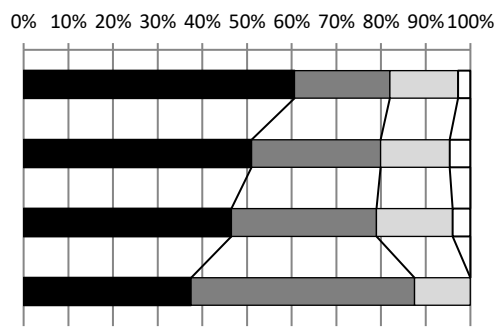
どの学年もとても高い肯定率です。授業や集会など、異学年で交流する機会があったからだと思います。学級での活動だけでなく、学年・学年団・異学年というように活動の場を広げ、交流することは、より良い人間関係を築いていくことにおいて有効と考えます。より充実した活動ができるように、学年活動・異学年活動等の在り方をさらに考えていきたいです。

⑪「読書活動の推進」について

読書活動については、昨年度と同様に肯定率は低いです。図書ボランティアの図書館の環境整理や委員会や図書館司書の呼びかけにより、読書に親しむ児童が増えてきたと感じますが、個人差が大きく、読書の習慣が身に付いていない児童が多いという実態があります。学校では、読書タイムを設けたり、読み聞かせの時間をつくったり、図書委員会がイベントを行ったりと、児童が本にふれる機会をつくっています。家庭においても、お子さんと一緒に読書をする時間を設けるなど、読書に親しむ環境づくりにご協力をお願いします。

4 たくましい心と体の育成

設問⑫	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
健康・体力づくりの推進 ～運動をしたり、体を動かしたり	1～3年	111 61%	39 21%	28 15%	5 3%
		82%	+6%	18%	-6%
	4～6年	99 51%	56 29%	30 15%	9 5%
		80%	+1%	20%	-1%
	保護者	175 47%	122 32%	64 17%	15 4%
		79%	-4%	21%	+4%
	教師	12 38%	16 50%	4 13%	0 0%
		88%	-5%	13%	+5%
設問⑬	対象	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
交通安全教育、防災教育、防犯教育の充実	1～3年	141 78%	30 17%	8 4%	2 1%
		94%	+7%	6%	-7%
	4～6年	102 53%	69 36%	18 9%	5 3%
		88%	+2%	12%	-2%
	保護者	121 32%	214 56%	44 12%	0 0%
		88%	-3%	12%	+3%
	教師	16 50%	15 47%	1 3%	0 0%
		97%	-3%	3%	+3%



たくましい心と体の育成の考察

⑫「健康・体力づくりの推進」について

スポーツ委員会の活動やキラキラタイムを通じて、外で体を動かす児童が増えてきました。また、気温が下がると、外で体を動かす児童は減りますが、図書室の利用者は増加傾向にあります。外遊びをしたい子がいる一方で校舎内で休み時間を過ごしたい子がいるのも現状です。今後は、子どもたちが自ら、活動を考えて外で体を動かすことができるように、教師側からの声かけをしていきたいと思います。

課題として、体力テストの結果をが全国に比べて低いことが挙げられます。これらの数値を急に上げることは難しいですが、体育の授業の工夫や休み時間と朝の時間の活用等により、成果は表れてくると考えています。そのためにも、指導法の情報交換や研修等をさらに教師間で行っていきたくと考えています。また、ラジオ体操を日頃の授業に取り込んでいくことも、子どもたちの体力の向上につながっていくと考え、積極的に行っています。

⑬「交通安全教育、防災教育、防犯教育の充実」について

避難訓練では、ほとんどの児童が、緊張感をもって行うことができました。特に、予告なしの避難訓練では、日頃の指導の成果が表れていました。しかし、私語が少し目立つ学年もあります。そこを改善していくためにも、実際に火事や地震の怖さを疑似体験したり、映像資料を使って学習したりすることも効果があると考えています。

交通安全、特に登下校の安全においては、登下校中の歩き方があまりよくありません。道に広がって歩く児童もいますし、ポケットに手を入れて歩いている子もいます。フードをかぶっている児童も、視野が狭くなるだけでなく、周りの音が聞こえにくくなってたいへん危険です。そこを改善していくために、今後は、「車に気を付けて。」や「走らないで帰ろう。」「ポケットから手を出して歩こう。」「寒いときは手袋を着用しよう。」など、日々の声かけを、全職員が共通理解のもと、行っていくことが大切だと考えています。

5 その他

設問⑭	対象	あてはまる		だいたいあてはまる		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
家庭、地域と連携した教育活動の充実	1～3年	122	66%	42	23%	13	7%	8	4%
		89%		+9%		11%		-9%	
	4～6年	53	27%	90	46%	41	21%	10	5%
		74%		-1%		26%		+1%	
	保護者	91	24%	219	58%	61	16%	6	2%
		82%		+1%		18%		-1%	
教師	11	34%	19	59%	2	6%	0	0%	
	94%		-3%		6%		+3%		

設問⑮	対象	あてはまる		だいたいあてはまる		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
快適な環境で学習できるような、教育環境の整備	保護者	99	26%	209	56%	59	16%	9	2%
		82%		+9%		18%		-9%	
	教師	13	41%	17	53%	2	6%	0	0%
		94%		-3%		6%		+3%	

その他の考察

⑭「家庭、地域と連携した教育活動の充実」について

地域の方やボランティアの方々のおかげで、よりよい学校環境や学習環境の整備につながっています。スクールコーディネーターには、授業協力者の紹介をしてもらったり、授業協力者や講師等に連絡を取って調整していただいたりしています。そのおかげで、子どもたちは学習意欲を高めて、学習に取り組んでいます。

担任が保護者と直接連絡を取り合うことで、保護者の安心につながっていることもあるようです。学級での様子や学習の様子を互い伝え合ったり、相談し合ったりすることで、良い関係をつくることができているケースも増えてきました。

地域や学校での児童のあいさつには課題があります。児童会で行った「あいさつカード」の取り組みは有効でしたので、引き続き、「自分のあいさつ」を振り返る機会を設けていきたいと考えています。また、「ありがとう」や「ごめんなさい」、「いただきます」や「ごちそうさま」など、「おはようございます」以外のあいさつについても日頃から指導していき、相手に対して「反応する」ことの大切さについても指導していきます。

⑮「教育環境の整備」について

今年度から、夏の暑い時期に、教室エアコンを使用することができ、快適な環境の中、集中して授業を行うことができました。しかし、トイレの悪臭は非常に問題になっています。市では、本校のトイレの「快適化」ではなく「洋式化」を進めているため、配管工事までは着手はできないようです。そのため、学校としては、掃除の仕方への工夫や芳香剤等で対応をしていきます。大型テレビと電子教科書、書画カメラやプロジェクターは、どの学級でも使用頻度が高く、たいへん教育効果もありますので、今よりも台数を増やせないかを市に相談をしていきたいと考えています。